



写真：電子情報通信工学専攻1年 浪越允雅「せせらぎ」

1. 図書館だより発行によせて（高松キャンパス図書館長 河野通弘）
2. 入賞結果発表・写真
3. 講評
4. 入賞作品紹介 高松（4編）・説問（5編）

高松	読書感想文	優秀賞	建設環境工学科	3年	河野	里矢香
	〃	佳作	1年2組		桑村	優花
	千頁読破記	優秀賞	電気情報工学科	3年	森田	稜也
	〃	佳作	電気情報工学科	2年	鈴木	雅敏
説問	読書感想文	1位	情報通信工学科	5年	田岡	愛巳
	〃	2位	情報工学科	2年	瀬戸	友太
	〃	2位	情報工学科	5年	今川	由依子
	〃	3位	情報通信工学科	2年	中西	一哉
	〃	3位	情報工学科	5年	柏原	麻美
5. 学生・教員による推薦図書（21編）
6. 上半期ランキング（図書、CD、DVD）
7. 図書館からのお知らせ

図書館だより 発行によせて

高松キャンパス図書館長
河野 通弘



7、8年前、日本で最も長い商店街からすこし離れた裏路地を歩いていたとき、串焼き屋さんのお店が目に入りました。午後4時頃、大阪環状線の駅の近くです。ドアは閉まっていたのですが、なかで人が仕事をしているようなので、「よろしいでしょうか」といって、カウンターに座りました。聞くと、その日が開店初日で、店のマスターが準備をしているところでした。じつに実直そうな方でした。はからずも自分がそのお店の第1号の客になって、それからは大阪に帰ると時間があればその店に立ち寄り、いろいろと世間話をするようになりました。

そのマスターから今年5月のはじめ、今月一杯で店を閉めることにしたと聞かされました。彼は、高校を卒業すると同時に父の商売を手伝い、それこそ身を粉にして働いたそうです。父親は財をなしたけれど、仕事だけで一生を終えたような人で、そんな風にはなりたくないともいわれました。

釣りが趣味で、遠出をしたこともあるそうです。去年、香川県のうどん屋さんの新聞記事に目がとまり、触発されて定休日を週2日にしました。やっぱり売り上げが激減したそうですが、ようやくほんとの休日が手に入ったと喜んでおられました。彼は、今年66歳になります。この48年間働きっぱなしで、もうええかなと思う、といわれました。体が動くうちに自転車で四国を一周する、そうです。

その店で何度かカウンター越しに本が置いているのを見ましたので、本が好きなのですかと聞いたことがあります。近くの公立図書館から本を借りて、店にお客がいないとき読むと。これもひとつの楽しみであったようです。釣りも本も、一時的にも現実の執酷から頭や気分を解放してくれます。そして今回は、釣りや本とはちがう大がかりな非日常を計画されています。もう実行されたのでしょうか。店はもうありませんでした。

香川高専は、昨年10月1日、二つの高専がひとつにまとまって新しく生まれかわりました。キャンパスは二つの場所に別れておりますが、香川高専としては一つということですね。図書館も同様です。図書館の建物は各「場所」に一つずつありますが、「場」としての図書館は一つです。「図書館だより」も一つにまとまりました。この小冊子は、各キャンパスの図書館だよりで育ったよい遺伝子を失くさないで、さらによい遺伝子を作って残そうとして企図されたものです。衷心、これからもこの冊子をどうぞよろしくお願ひします。

夏休み読書感想文・千頁読破記 入賞結果発表



高松キャンパス 読書感想文

優秀賞 建設環境工学科 3年 河野里矢香
佳作 1年2組 桑村 優花

千頁読破記

優秀賞 電気情報工学科 3年 森田 稜也
佳作 電気情報工学科 2年 鈴木 雅敏



詫間キャンパス 読書感想文

1位 情報通信工学科 5年 田岡 愛巳
2位 情報工学科 2年 瀬戸 友太
2位 情報工学科 5年 今川由依子
3位 情報通信工学科 2年 中西 一哉
3位 情報工学科 5年 柏原 麻美

講評

高松キャンパス
一般教育科 坂本 具償

読書感想文の入賞者2名(高松キャンパス応募総数122編)、千頁読破記の入賞者2名(同じく応募総数202編)が決まりました。応募総数は読破記は例年並み、感想文は昨年より少し増えたといったところでしょうか。

では入賞作品について簡単にコメントしておきましょう。

感想文の優秀賞は3年建設環境工学科の河野里矢香さんの「深夜特急に乗って」。作者の姿に自分を重ね合わせて読んでいく。それこそが読書の楽しさでしょう。作者が考えたことに乗っかかりながらも、河野さん自身がいろいろなことを考え、そしてしっかりと自分を見つめ直すことができています。

佳作は1年2組桑村優花さんの「伝える」。

日常的でありふれた言葉なのに、“詩人”の手にかかると、どうしてこうも鋭く輝いているのでしょうか。一方でそのきらめきを敏感に感じ取れる読み手があります。純粹で研ぎ澄まされた感性。同じように桑村さんは自分の想いを「伝えたい」のですね。

千頁読破記の優秀賞は3年電気情報工学科森田稜也さんの「江戸の数学教科書」。さすがに高専の学生さん、数学関係の本がずらり。ちょんまげと数学がどうも結びつかない。そんな疑問から出発して、「楽しいから学ぶ、おもしろいから考える」という見事な解答が導き出されました。学問は楽しい。

佳作は2年電気情報工学科鈴木雅敏さんの「伊坂幸太郎読破記録」。虚構の世界のはずなのに妙に現実的で人間くさい。小説の本質のようなものを鈴木さんは捉えています。「登場人物と自分を重ねて物語にのめりこみ、「本は人生の教科書ではないか」と言えるのは、やはりいい本と巡り会えた証ですね。

詫間キャンパス
一般教育科 森 孝宏

平成22年度詫間キャンパスの読書感想文コンクールには、147編の応募がありました。二年生には夏休みの宿題として課しましたが、他の学年は自由参加でした。

入選は、『手紙』を読んで、命の価値を見失わない自分になりたいという「命の重さ」。『非行少女を処刑しろ』を読んで、自分の成長の機会をあたえてくれた数々の失敗に感謝したいと結んだ「失敗の意義」。権力と道德の狭間で自分の信じた道を進んでいきたいと結んだ「海と毒薬」。互いを肌で触れ合うことで心を通じ合わせることが今の世に必要と述べた『きな子』を読んで。読む度に、前向きにがんばろうと思える『真夜中の五分前』を讀んでの「一日の小さなかけら」の五編です。これらは、生き方、考え方について思考する契機となっているもので、読書の意義として、うれしく思います。

残念なこともあります。提出された宿題の中には、インターネットからの盗用とわかるもの、小中学生レベルの本や国語の授業で扱った小説についての感想文も混じっていました。宿題の責を果たせばよしとするのでは、あまりに近視眼的です。年齢相応の本を読んで欲しいと願うのは、未知の考え方や立場の違いを吸収して、思考の巾を広げて欲しいためです。読書感想文コンクールを機会に、読書の習慣を身に付けて欲しいと願っています。

